

食料生産に不可欠な農薬の管理に関する国際比較研究
—先進国・中進国・後進国の実態—

学籍番号：08MD0065

氏名：北村 恭朗

1. 研究の目的と方法及び論文の概要

現在の人類を支えているのは近代農業である。近代農業において農薬は必要不可欠な資材であるが、使用者の健康被害や環境汚染、食品に残留した農薬による消費者への健康影響等負の側面も抱えている。そこで、先進国においては、農薬を行政機関が厳格に管理している。しかし、経済・人的資源において困窮状態にある途上国では農薬の管理が不十分なことが予想される。グローバル化が進んだ現代では、農薬管理について南北間の格差が甚だしい場合、これは途上国のみならず全人類の問題となる。先進国と途上国の農薬管理制度およびその実態について持続可能な社会の構築を目指すとの文脈から取り扱った研究は極限られている。本論文では、現地調査（関係者との面談およびアンケート等）および文献調査（インターネットを含む）から得た情報を考究し、調査各国の実態を鮮明に浮かび上がらせ、今後の議論の立脚点を広く社会に提供することを目的とした。また、明白になった実態から導き出される喫緊の課題についての対応策についての提案を行った。

序論では、本研究の背景と課題および目的と意義について包括的に要約した。

第1章では、農薬について、その定義、使用および開発の歴史について整理した。また、農薬の開発について、探索研究から上市するまでの過程および要するコストについて確認した。世界における農薬市場について概観し、農薬市場の規模が医薬品市場の約17分の1であること、また欧米の大規模化学品メーカー6社の市場占有率が70%を超え寡占化が進んでいることを確かめた。さらに近代農業および公衆衛生における農薬の役割と問題点について、減収率や労力の軽減、マラリアのコントロール、中毒事故、環境汚染等具体例を列挙し論証した。農薬と医薬品の相違点について考察すると共にジェネリック品、模倣品、違法農薬等について現状の整理を行った。

第2章では、農薬管理に関する国際的な取り組みについて究明を行った。今日の化学物質管理に1992年に開催されたいわゆる地球サミットが大きな影響を与えていることを明らかにした。さらに化学物質の管理に関与している国連機関、行動計画、国際条約等について調査しまとめた。

第3章では、第2章でまとめた農薬管理に係る国際的な取り組みについて討究し、それらが、①途上国への指針の提供を目的としているもの、②新規開発有効成分等の審査効率化を目的としているもの、③持続可能な開発の達成を目的としているものの3つに類別できることを見出した。

第4章では先進国の事例として日本、第5章では中進国の事例として台湾、第6章では、途上国の事例としてフィリピンとカンボジアにおける農薬管理制度とその運用の実態について探求した。

第7章では、総合考察を行った。調査対象4ヶ国の農薬管理の実態について、第3章で見出した3つの類型を規定している考えを分析の視点とし解析した。解析から浮かび上がったのは農薬管理に関して先進国と途上国の間の途方もなく広く深いギャップであった。このギャップを途上国が独力で埋めることは不可能と判断し、先進国による直接的な介入の必要性について提言した。さらに、

「国際社会で調和すべき管理水準」の明確化が今後の重要な研究課題であるとの考えを披瀝した。

2. 論文の構成

論文要旨	i
目次	ii
略語一覧	iv
序章 はじめに	1
第1節 研究の背景と課題	1
第2節 本研究の目的と意義	3
第1章 農薬とは	5
第1節 農薬の概要	5
第2節 近代農業及び公衆衛生における農薬の役割及び問題点	11
第2章 農薬管理に関する国際的な取り組み	22
第1節 農薬管理と化学物質管理について	22
第2節 国際社会における化学物質管理の潮流	23
第3節 国際的な化学物質管理に関わる国際機関及び行動計画等の概要	24
第4節 国連経済社会理事会（UNECOSOC）を中心とした取り組み	31
第5節 世界保健機関（WHO）を中心とした取り組み	34
第6節 国連食料農業機関（FAO）を中心とした取り組み	35
第7節 経済協力開発機構（OECD）を中心とした取り組み	38
第8節 Codex 委員会による食品中の残留農薬の管理	41
第9節 農薬企業の取り組み	41
第10節 化学物質管理に関する国際条約	43
第11節 農薬適正管理・使用に関する農業者、各国行政機関等による取り組み	48
第3章 各取り組みから整理される分析の視点	51
第1節 発展途上国への指針の提供	51
第2節 新規開発有効成分等の審査効率化	52
第3節 持続可能な開発の達成	53
第4章 先進国における農薬管理制度とその実態（日本について）	55
第1節 日本の概観	55
第2節 日本における農薬管理制度及び農薬登録の仕組み	55

第3節	日本における登録農薬の状況 -----	62
第4節	日本における農薬管理・使用者等の研修及びライセンス制度 -----	67
第5節	先進国における実態の分析 -----	68
第5章	中進国（新興工業経済地域）における農薬管理制度とその実態(台湾について) -----	70
第1節	台湾の概観 -----	70
第2節	台湾における農薬管理制度及び農薬登録の仕組み -----	70
第3節	台湾における登録農薬の状況 -----	75
第4節	台湾における農薬管理・使用者等の研修及びライセンス制度 -----	80
第5節	中進国（新興工業経済地域）における実態の分析 -----	80
第6章	途上国（先発途上国、後発途上国）における農薬管理制度とその実態 （フィリピン（先発途上国）、カンボジア（後発途上国）について） -----	84
第1節	フィリピンの概観 -----	84
第2節	フィリピンにおける農薬管理制度及び農薬登録の仕組み -----	84
第3節	フィリピンにおける登録農薬の状況 -----	87
第4節	カンボジアの概観 -----	90
第5節	カンボジアにおける農薬管理制度及び農薬登録の仕組み -----	91
第6節	カンボジアにおける登録農薬の状況 -----	93
第7節	途上国における実態の分析 -----	96
第7章	総合考察 -----	100
第1節	本研究の総括 -----	100
第2節	あるべき農薬管理に関する提言 -----	107
第3節	今後の研究課題 -----	109
あとがき	-----	110
謝辞	-----	111
文献リスト	-----	112
別紙	-----	117